

見解

(大柏川流域の水と緑の回廊構想・水と緑の探検報告書第4回分冊、2007年6月より一部修正)

・ハンノキ林等樹林

右岸にはヤナギ林が、左岸には景観的にも美しいハンノキの純林があり、湧水による何筋かの小川も流れ込んでいる。まとまったハンノキ林は稀少であり、参加者から保全しながら調節池築造をして欲しいとの声が多く聞かれた。

・支流根郷川と周辺斜面林

支流の二和川はほとんど暗渠の河川になっているが、根郷川は水量も多くオオカダナモ等水草が繁茂し、大柏川本流に比べ水質も良い。周囲の斜面林は貝柄山へ連続して残る。上流部の「水と緑の回廊」の支線軸として位置づけることができる。

・大柏川第2調節池

大柏川第二調節池は計画面積約26ha、大柏川の本流中沢川と支流の根郷川・二和川の3河川が合流するところで、すでに根郷川の合流地点に仮設調節池が設けられている。この湿地は、市川の青少年の森・大町公園・市川霊園、船橋の丸山・藤原市民の森、鎌ヶ谷の貝殻山公園等周辺樹林の中央に位置し、野生生物のネットワークの最重要拠点となるエリアである。このような自然環境条件に築造される第二調節池は支線を含めた上流域の「水と緑の回廊」の要となる「水と緑の拠点」である。

以上、現在の自然環境を保全しながら、第一調節池と同様市民参加による自然環境復元・創造の取り組みが期待される。